

次に、収支決算の説明があり、その後、監事からは、会員減少により全育連の財政状況は非常に厳しい状況にあることや情報形態や会員の高齢化等の社会現象に対する対応及び3年以内には、根本的な改革が必要であることなどが報告されました。

また、令和2年度に開始した保険事業の分野では、団体契約の保険料割引に関しては、第一段階の加入数100名、10%割引を達成することができましたが、さらに割安な15%達成には、500名の加入が必要のため、年度ごとに計画的な加入者増を目指す必要があるとのことでした。

なお、令和4、5年度の全育連の3役が次のような体制となりましたので、ご報告いたします。

会長	久保 厚子 氏	
副会長	佐々木 桃子 氏	1
	小島 幸子 氏	2
	大谷 喜博 氏	3
	西 恵美 氏	4
	小出 隆司 氏	5
専務理事	田中 正博 氏	
常務理事 (事務局長)	又村 あおい 氏	

こちらが言うものを絵に描いてもらう「抽象的な言葉は理解しにくい」の2つの体験をしていただきました。

軍手をはめて輪っかをつなぐ時に、最初は、「早く、早く」「もっときれいに」「時間がないよ」と追い詰めるような声かけをして、次は、「ゆっくりでいいよ」「上手、上手」と相手に寄り添った声かけを行います。終わった後で感想をお伺いすると「最初は、すごくプレッシャーを感じて、手が震えた。2回目は、ゆったりとした気持ちで作ることができた。声かけられる言葉によって、全然気持ちが違った。」と仰っていました。

絵を描く体験でも「りんご」や「ボール」の具体物は、すぐに描けたけど、「ちょっと」や「ちゃんと」のような抽象的なものは、何を描いていいのか、頭に思い浮かばなかった。「今までそんな絵を描いたことがなかった。」「イメージがわからず、自分の画力のなさに気づいた。」等々、いろいろな感想を述べて下さいました。

最後のまとめの部分は、再びDVDを視聴してもらい、知的や発達に障がいのある人を助けるのは、当事者を理解し見守ってくれる地域の人だということを訴えました。その後は、育成会都島区支部の大野さんが、相談員として活動されている中から、事例を挙げて、困ったことやどのように対応したかを分かりやすくお話しされました。

続いて、前理事長の小泉さん(東成区支部)が、地域でサポートされている方に向けて、知的や精神障がいのある方等が相談に来られることもあるかと思うが、自分だけで解決しようと思わずに、地域にある専門機関や団体に誘導していただきたい。そのためにも地域の社会資源を把握し、必要な時に相談できるシステムを作り、支援を行う皆さんが不安になることがないようにしていただきたいとアドバイスされました。

都島区では、活発な活動を展開しておられ、昨年も自立支援協議会当事者部会より依頼を受け、小学校で啓発活動を行いました。今後も更なる障がい者理解に向けて、協力させていただければと思っています。



【障がい理解についての啓発活動/都島区社協にて】

都島区社会福祉協議会にて「障がい理解について」をテーマに啓発活動を行いました

理事長 長谷川 美智代

都島区社会福祉協議会よりご依頼があり7月8日金曜日に「みんなちがってみんないい～知的障がい・発達障がいを理解する～」というテーマで、啓発活動を行いました。

今回は、身近な福祉の相談窓口である‘地域福祉コーディネーター’の皆様を対象とした研修会で、参加された方の年齢層も高く、どういった雰囲気になるのか少し心配でしたが、皆さん熱心に話を聞かれ、積極的に疑似体験にも参加して下さいました。

プログラムの内容としては、まず初めに知的障がいや発達障がいとは、どのような障がいであるかを理解してもらうために「NHK歳末たすけあい助成金」を活用して作った「みんなちがって みんないい」のDVDの前半部分を視聴していただきました。

次に、疑似体験をしてもらいましたが、今回は、「つないでつないで」の軍手をはめて輪っかを作り、つないでいてもらう「細かい作業が苦手な人の体験」と、